

学校名 (生徒数)	米原市立河南中学校 (105人)
--------------	---------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：米原市河南 295 番地

電話番号：0749-54-1129

**【研究の目的， 研究内容】**

**(1) 全国学力・学習状況調査の結果から見えた課題**

[国語A：主として知識]

課題：学力層の分析パターンに沿うと、定着度が2極化していること。

特に「書く力」「記述式」「応用」の力が劣っていること。

《書くこと》明確に書いたり、効果的に伝わるように書くこと。

《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》単語の類別

[国語B：主として活用]

課題：《書くこと》複数の資料を比較して読み、要旨をとらえること。

「書くこと」と「記述」に課題がある。

[数学A：主として知識]

課題：学力層別に結果を見ると、「観点3」が定着していない生徒がいること。

「数学的な考え方」「記述式」「応用」の力が劣っていること。

《図形》投影図から空間図形を読み取ること。

[数学B：主として活用]

課題：《数学的な見方や考え方》

判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

**(2) 課題解決に向けた改善策**

ア) 短期的に取り組むこと

\* 学力調査の分析結果から見えてきた課題を、校内研究会などの場で教師が共通理解する。

\* 国語科・数学科の授業で「学力調査」で明らかになった課題を意識し、授業改善を行う。

\* 定期テストの問題に、課題と関連する問題を取り入れて出題する。

イ) 中・長期的に取り組むこと

校内研究の具体的実践として、次の「重点5項目」を各教科通じて実践する。

① 授業で「めあて(課題)」を提示、単元の学習の予定の提示

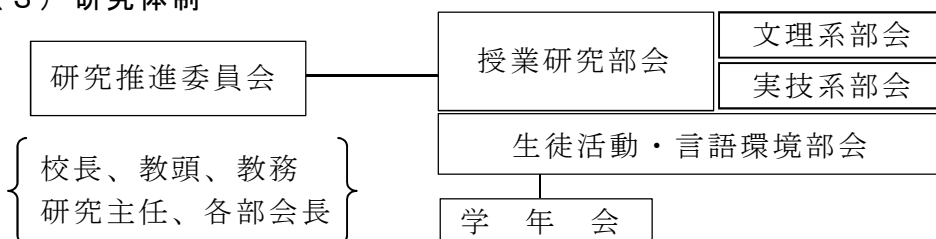
② 教科独自の工夫(思考→判断→表現という流れを学習指導・活動に意識的に取り入れる。)

③ 教え合い学習(学習集団づくり)・・・4人班等の少人数グループの活用

④ きめ細かな指導(個別の対応)

⑤ 「読解力」・「書く力」の育成

**(3) 研究体制**



#### (4) 1年間の主な取組の経過

- |     |        |                 |   |
|-----|--------|-----------------|---|
| 4月  | 2日(木)  | 推進委員会           | ・研究計画・部会の実践計画構想                                   |
|     | 9日(木)  | 全体会             | ・本年度の研究主題および内容・組織の大まかな提案                          |
| 5月  | 13日(水) | 全体研究会           | ・宿題と家庭学習の充実・指導案の形式提示<br>・部会の研究目標(めあて)、研究内容、授業者の決定 |
| 7月  | 10日(金) | 第1回全体授業研究会      | ⑤校時 1年生(数学科:廣瀬・嶋田教諭)                              |
| 8月  | 19日(水) | 全体研究会(全体研修会:講話) | ・ワールドカフェ・講話<br>(講師:県教委白石牧恵先生)                     |
| 10月 | 14日(木) | 第2回全体授業研究会      | ⑤校時 1年生(国語科:高堂)                                   |
| 10月 | 26日(月) | 第2回全体授業研究会      | ⑤校時 3年生(体育科:橘)                                    |
| 11月 | 6日(金)  | 研究授業            | ⑤校時 3年生(社会科:市川)                                   |
| 12月 | 14日(月) | 研究授業            | ③校時 1年生(社会科:北村)                                   |

#### (5) 具体的な研究内容・方法, 研究を進める上での工夫点等

ア) 全国学力・学習状況調査の自校採点から課題を明確にした。

身に付けたい力  
必要な情報を読み取り、自分の考えを記述する力

イ) 校内研究でテーマを設定し、全教師で取り組む。

校内研究会のテーマ  
「思考力・判断力・表現力を育てる授業実践  
— 伝え合う活動の工夫と言語環境づくりを通して —

#### 課題解決に向けた改善策

- ①本校校内研究会の課題として、全教科を通じて取り組む。
- ②つけたい力にせまれる場面はどこかを明確にして、計画や進め方を工夫する。
- ③毎時間、目標(課題)を明示し、そこへ至る手順や、現在の位置を意識させる。
- ④生徒が自らの言葉をつかって思考できるような場面設定をする。
- ⑤各教科における「思考力・判断力・表現力」について指導者が整理、確認する。
- ⑥「つまずき」や「支援」が必要な生徒へ効果的な指導を工夫する。
- ⑦「導入・展開・終末」段階の生徒の相互評価・自己評価、教師の評価を指導に生かす。

ウ) 全体研究会で意見交流(ワールドカフェ方式:教師が課題を自覚)



エ) 国語科の実践から

授業で大切にしたいこと

- A つけたい力を明確にする 【言語活動】  
どのような学習ができるか？  
(おもしろそうだ。やってみたい学習を。)
- B 主体的な学び
- C 目的意識
- D 見通しと振り返り
- E 考えの交流

教材 1年生

『ポスターセッションをする』

A つけたい力を明確に

単元目標

- 選んだテーマについて具体的な調査内容を設定し、主体的に調査研究する。
- 情報を整理し、効果的でわかりやすい表現を工夫して書くことができる。
- 聞き手の反応に応じて、話し方を工夫して話すことができる。

B 主体的な学び

1. ポスターセッションについて知り、自分のテーマを選ぼう。
2. 資料を読んで、必要な情報を抜き出そう。
3. ポスターを製作し、役割を決めて発表の準備をしよう。
4. ポスターセッションをしよう。

①時間目「やってみたい!!」(関心)・・・と、「ゴール」(課題・目標)がわかる。



教師がポスターセッションをやってみせる。

- ①追究したいジャンルを選ぶ。
- ②取り組む人数は1人～4人程度。

C 目的意識

D 見通しと振り返り

1. 取り組みたい課題を選ぶことで、目的意識は明確になる。
2. 「学習の手引き」で学習の見通しを立てる。  
毎時間の「振り返り」。
3. 学習予定を黒板に掲

学習の手引きで見通しと自己評価

## E 考えの交流

1. 教師が見本にポスターセッションをして見せて、工夫されているところを意見交流する。
2. 参考となる書籍などを用意して、言葉を引用できるようにしておく。
3. 学習に必要な少人数のグループで学習する。(ゆるやかな小集団学習：必要な相手をその都度選んで学習する小集団学習)
4. 発表は他のグループと意見交流する。

## ④時間目(ポスター製作と説明文を考える)



先生のポスターセッションの工夫点や教科書のポスターの工夫点を参考に



## ⑥時間目 ポスターセッションをしよう

発表し合おう



評価し合おう



聞く人の表情を見ながら話す

学習を振り返る



聞き合うことで自分の学習を振り返る

## 【研究成果と課題】

### (1) 研究成果

各教科の授業や行事等で「思考力・判断力・表現力を育てる授業実践－伝え合う活動の工夫と言語環境づくりを通して－」をテーマに6年間研究実践してきた結果、全国学力・学習状況調査の結果は全国平均を上回ることができた。

校内研究会の夏季研修会で「思考力・判断力・表現力を育てる授業実践－伝え合う活動の工夫と言語環境づくりを通して－」をテーマにワールドカフェ方式で話し合いを行ったことで、「つけたい力」に向けて、どのような言語活動を工夫しているか各教科を通じて活発に意見をすることができた。

### (2) 課題等

国語科では「書くこと」の「記述」と「活用」に課題があり、数学科でも問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られた。また、生徒質問紙では、話し合い活動や学習の振り返りに課題が見られ、今後も課題解決に向けた実践を続けていきたい。